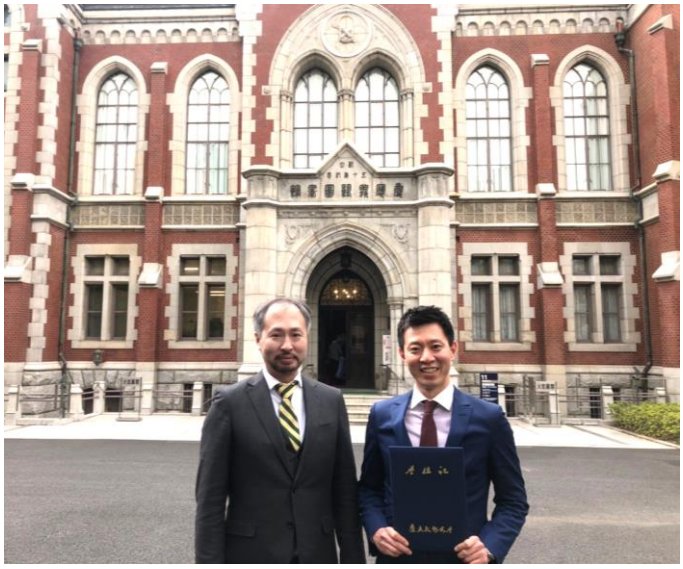
育児は惜しみなく時間を奪っていくけれど

第 10 期 OB　石井 隆太

昨年 2021 年は，自分のライフステージを変えてくれるような，様々なイベントを迎えた一年でした。近況報告として，この場を借りて，それらについてご紹介させて頂きます。

◆博士号の取得

2021 年 1 月 19 日付けで，博士号が授与されて，3 月に開催された学位授与式では，商学研究科の代表として，学位記を受け取らせて頂きました。会場は，2 年半にわたる工事を経て，2020 年 3 月に完成したばかりの新・日吉記念館でした。博士号の取得に向けて，博士論文の指導にあたってくだり，学部時代から数えると約 10 年間という期間を通じて，ここまで鍛え上げてくださった小野晃典先生には，感謝の気持ちで一杯です。そして，副査の先生方をはじめ，慶應義塾大学商学研究科の先生方にも，在学時代に数多くのことを教えて頂き，本当に感謝です。



慶應義塾のシンボルこと図書館旧館前にて小野先生と

ふと思い立って確認してみたところ，私の博士論文は，文字数 20 万字ほどのボリュームでした。一般的な小説の文字数はだいたい 10 万字ほどだそうですので，このボリュームは，小説 2 冊分の長さに該当します。両者は質的に比較できるものでは全く無いのですが，少なくとも，その程度の文字を書いたようです。いくら駄文であっても，その文字数を書くには，それなりの苦労を要します。慶應義塾大学商学研究科の博士課程の 3 年間で，必要な履修単位数は，12 単位です。慶應義塾大学商学部ですと，4 年間で 128 単位が必要でして，日吉の 2 年間で 70 単位取って，3 年生で 40 単位頑張って，後はゼミの単位で卒業，というのが王道ルートであったのに比べると，信じられないような必要単位数ですが，その分，この博士論文の執筆に，身に付けるべきことが詰まっていると考えると納得がいきます。大学院生時代は，キャレルに張り付いて研究と勉強に思い切り取り組んで，ゼミでは学部・大学院生と楽しく交流し，学びの多き贅沢な時間を過ごさせて頂きました。博士号の名に恥じぬよう，また，学恩に報いることができるよう，これか

らも研鑽を積んでいく所存です。

◆福井県立大学を退職

2021 年 3 月をもって，2 年間務めた福井県立大学を退職しました。福井県立大学は，名実ともに，私にとってのファーストキャリアであり，この 2 年間は，とても印象深いものとなりました。就職当初，初めて自分の研究室をもらい，初めて研究費を付けて頂き，初めて給与と賞与をもらって，少なくとも形式上は，一人前の研究者になれた

ようで，とても嬉しかったのを覚えています。同じマーケティング分野の北島啓嗣先生をはじめ，福井県立大学の先生方には本当に温かく接して頂きました。「若いうちは，ツマラナイ雑務なんてやらなくて良いので，どうぞ研究を思い切りやってください」，「今は博論に集中してください」などとお声がけ頂くだけではなく，実際に，仕事をあまり振らないようにしてくださっていたように思います。おかげ様で，この 2 年間で，自分にしては多産な研究成果を挙げることができましたし，初めての講義やゼミなどの教育業務にも思い切り取り組むこともできました。論文の執筆や講義の準備に追われて，明け方まで研究室に残ってパソコンに向かっていた日々がとても懐かしいです。お世話になった福井県立大学や福井県へ，この先の研究者人生で，何かしらの形で貢献したいという思いです。

恐竜がトレードマークの福井駅前

◆立命館大学へ転職

2021 年 4 月からは，立命館大学経営学部にて勤めております。前職の県立大学とは異なり，学生数が多く，ゼミ生も 1 学年 20 名在籍していて，私立大学らしい賑やかさを感じます。今年度は，ゼミや講義の充

第 11 期 内藤 節くんと ゼミ生と共に（著者は中央左）

実化を図るべく，小野ゼミ OB･OG 会のネットワークを存分に活用させて頂きました。まず，石井ゼミでは，11 期のぶっしーこと内藤節くん（サッポロビール株式会社）と，さんでぃーこと 13 期の山本彩理さん（株式会社資生堂）に，講演を行ってもらいました。お 2 人とも，消費財メーカーのマーケティングにかかわる仕事に従事されていて，マーケティングゼミの学生にとってはとても興味深い講演内容だったようです。私自身，業界の詳しい事情を聞いて，研究や授業のネタになりそうなお話を聞くことができました。また，秋にはゼミ募集があったのですが，石井ゼミでは，サッポロビールや資生堂など，日本を代表する大手企業の話が聞けるという評判が立ち，人気が出ました（笑）。ありがとうございました。

写真左は，第 13 期山本彩理さんとの卒業時に（著者は右）
写真右は，第 11 期石田陽一郎さんと特別講演後に（著者は左）

そして，私の担当する

流通論の講義では，第 8 期の石田陽一郎さんにお越しいただき，1 コマ分の特別講演を行って頂きました。当日は，コロナ禍でしたので，希望者の人数を絞っての参加でしたが，流通論の科目自体は，履修者数 750 名ほどおり，ライブ配信ならびにオンデマンド配信にて，履修生に視聴してもらいました。製茶業界の流通事情や，製茶メーカーの流通戦略についてご講義いただき，学生からは面白かったという声を沢山聴くことができました。石田さんは，小野ゼミでは流通論をテーマにした卒業論文を執筆され，その後，大学院にて修士号を取得されるという学術的なバックボーンをお持ちの方で，ビジネス現場での出来事を，学術的な知見を交えながらご講演くださり，大学での講義としては完璧と言いうる内容でした。流通論の全講義を終えた後に，学生から募った感想の中には，全 15 回の中で石田さんの特別講演が一番面白かったですという，何とも正直なご意見を頂戴することができたほどでした。

◆長女の出産

2021 年の 9 月 8 日に，長女・琴子が生まれました。皆さまご存じのとおり，8 月と 9 月は，大学が夏季休暇中です。大学教員は，研究や学務の仕事はありますし，次期に向けた授業準備もありますが，時間的・場所的に拘束される仕事が少なくなり，仕事のコントロールが効きやすい時期でしたので，夫婦揃って里帰りして出産準備を進めました。予定日を 9 日過ぎての出産で，妊娠期間の終盤は，緊張の糸が緩み切ってダレ気味の生活でしたが，娘が生まれてからは生活が一変しました。とにかく，生まれて初めての育児に悪戦苦闘しました。そもそも，赤ちゃんを抱いたことなんて，記憶の上では無いわけで，抱き方を教わるところから始まりました。それから，ミルクのあげ方，おむつの替え方，寝かしつけ方，お風呂の入れ方，保湿，哺乳瓶の消毒，抱っこ紐の使い方…覚えることが山ほどありました。さらには，育児用品の多さに驚愕しました。カテゴリーだけ挙げても，おむつ，ミルク，抱っこ紐，ベビーカー，チャイルドシート，ベビーベッド，ベビー布団，マットレス，おくるみ，おしりふき，ベビーオイル，ベビー服，おもちゃ，哺乳瓶，哺乳瓶消毒グッズ，バウンサー，プレイマット，沐浴バスタブなどの定番品はもちろんのこと，おしりふき温め器，フットマフ，ハイチェアといった便利品まであります。しかも，これらの商品カテゴリーごとに，数多のメーカーやブランドが参戦しています。コンビ，アップリカ，ピジョンといった日本を代表するベビー用品メーカーはもちろんのこと，日用品となれば米国メーカー，大物用品になればドイツやイギリスをはじめとする西欧メーカーが日本市場でも勢力を誇っており，ベビーチェアや寝室まわりのグッズを中心に北欧メーカーも強いです。これらの商品カテゴリーの概要を把握し，各ブランドを調べて，候補ブランドを絞り込み，ネットや店舗で価格を調査し，ブランドを決定して注文決済し，実際に届いて

明け方 3 時のミルク，義実家にて。
眉間の皺が当時の過酷さを物語っている。

からその使い方を学習する，というプロセスを，数十回，行ったように思います。情報処理能力が限界を迎えてしまい，頭がパンク状態になっていました。もちろん，育児についても，単にお腹を一杯にして寝かせておけばOK，というわけでも無いらしく，朝日を浴びさせないといけないとか，ミルクとおむつは前者が先とか，抱っこ紐じゃないと寝かせられないとか，育児特殊な知識とスキルを身に付けるべく，楽しくも奮闘する日々が続いています。

さて，本エッセイのタイトル「育児は惜しみなく時間を奪っていくけれど」は，子供が生まれた私に対して，中央大学の久保知一先生が贈ってくれたメールの一節です。その一節の後には，「新生児の期間は短いので写真や動画を撮りまくって楽しんでください」と続きます。その言葉のとおり，育児に従事していると毎日が飛び去るように過ぎていきます。そして，これもその言葉のとおりですが，今振り返ってみれば，生まれた直後の極めてバブバブな期間は，確かに短くて，もう戻ってこないという意味で貴重であったなと感じます。ですが，実はそれは，新生児期であろうと，続・新生児期であろうと，続続・新生児期であろうと，どれも同じように，その期間は短く限られた貴重なものです。今は，首がすわったとか，寝返りをうったとか，夜寝る時間が長くなったとか，そんなことに大きな成長を感じて随分と大人になったように思いますが，後で振り返ってみれば，きっと今の期間も，とても貴重なバブバブ期間です。もっと言えば，とある期間が限られた貴重なものであるのは，子供の成長だけに当てはまることではありません。私にとって，子供が生まれてからの「子育て開始期」は，育児に惜しみなく時間をつぎ込んで，これまでには無い様々な経験をすることができた貴重な期間でしたが，それまでの期間も，振り返ってみれば貴重でした。単身で自分の好きなことに好きなだけ時間を掛けるとか，夫婦 2 人で一緒にどこかへ出掛けるとか，そんな，子供が生まれる前に出来ていたことも，その期間にしかできなかったことであり，その時にしか楽しめなかったことであったなと思います。次から次へとステージを駆け上がっていく子供の姿を見ていると，その時々が，一瞬一瞬が，日々が，スペシャルでメモリアルなのだなと感じさせられます。毎日が掛け替えのない日々だということを意識して，自分や家族のこれからのステージを楽しみたいと思う今日この頃です。

近所の公園にて満面の笑みの娘と